

◆日時： 2013年5月25日（土）

◆場所： 諫早のアーケードの中にある軽食喫茶「タック」

（障がい者自立支援施設）で、お昼のランチ（コーヒー付き、480円）

就労支援の話

定例会のようす



5月25日は諫早のアーケードの中にある軽食喫茶「タック」(障がい者自立支援施設)で、お昼のランチ（コーヒー付き、480円）をとっても美味しく食べました。

その後は、代表の庄司さんにお話を聴きました。諫早のアーケードもシャッターが降りているところが多い中、「タック」とアンテナショップが2軒連なり、ひとときわ明るい霧囿気でした。

地域の活性化のために施設を街の真ん中においているそうです。11時～14時のランチタイムに80～90食を売り上げるそうです。

雇用にあたっては、「障がい者という目で見ない」、「初めからプロはいない」、「障がい者の店だからといって手を抜かない」というスタンスの元、始めたそうです。オーダーが取りやすいようにメニューは2つにし、一人暮らしの子に昼間にいいものを食べさせたいという考えで、料金も1コインより上げないでがんばっています。お客はリピーターが多く、また働き始めの頃は1日中立っているのがつらかったが、慣れていくことで体力もつき、次の仕事を考えて動くことができるようになったといいます。緊張してカップからコーヒーがこぼれて、お客さんの所に着いた時にはカップの半分だったこともあるそうです。ここで働いている人は、基本的に自分で生活している（アパート）そうです。自分で生活する方が、人に頼ったり、掃除できない人は支援してもらったりヘルパーさんの力を借りられる。また重度の方も、シェアハウスで独身の人に住んでもらって必要な時に手を借りるというシステムにしているそうです。庄司さんは、「その人の生きがいを見つけてやること。店を与えることで本人が変わってくるので、話すことをやめないこと。」と話されていたのが印象的でした。ぜひ食事に行ってください！